

# 2023 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 12 月 12 日作成)

小委員会名	温度荷重小委員会	主 査 名：池田 周英 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：五十田 博 (主 査 名：森 保宏 )
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>日射や室内温度といった様々な温度条件 (温度荷重) によって生じる建築物の構造体の変形、応力を把握し、適切な設計の対応を可能とするための指針 (データ及びその活用方法) を示すことが小委員会としての活動目的である。</p> <p>今回の荷重指針、設計資料集の改定に向けて、最新の温度データの分析、温度荷重による疲労の検討、部材温度の実測例の収集と簡易予測法の提案、指針を活用した設計事例のブラッシュアップ、等の課題に取り組む。</p> <p><b>初年度</b>：最新の外気データ、確率分布の整理、繰返し応力に対する疲労の検討、部材温度の実測と簡易予測方法、設計事例の追加、更新 についての検討</p> <p><b>2年度</b>：①最新の外気データ、確率分布の整理、繰返し応力に対する疲労の検討、部材温度の実測と簡易予測方法 に関する成果の発表 ②今回の荷重指針改定に向けた利用者の意見・要望の聴取内容・方法の検討 (シンポジウム、アンケート、など)</p> <p><b>3年度</b>：①最新の外気データ、確率分布の整理、繰返し応力に対する疲労の検討、部材温度の実測と簡易予測方法 に関する成果の纏め、設計事例の更新、追加・更新内容の纏め、②今回の荷重指針改定に向けた意見聴取の実施 (シンポジウム、アンケート、など)</p> <p><b>4年度</b>：今回の荷重指針改定案の作成</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：池田周英 (竹中工務店)</p> <p>幹事：浅井英克 (大林組)、小川彰宏 (元清水建設、現大和ハウス工業)</p> <p>委員：石川孝重 (元日本女子大)、中島秀雄 (元小山高専、現大和)、久木章江 (文化学園大)、伊藤博夫 (aac)、宮崎健太郎 (日建設計)、中尾彰宏 (日本設計)、小前健太郎 (清水建設)、間室健一 (日本設計)、永田明寛、(東京都立大)、李在純 (大建設計)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2023 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回+幹事会 3 回 (年度内計画を含む)
刊行物	
講習会	
催し物	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>一昨年、昨年度に引き続き、Web会議開催が主となったが、計画通りの達成度であった</li> <li>建設現場及び小試験体の構造体温度の実測を踏まえ、簡易予測法の精度向上を行った</li> <li>温度の観測データのアップデート、構造体温度の簡易予測法の提案、設計事例のブラッシュアップ等、今回の荷重指針改定に向けての議論を行った</li> <li>学会大会梗概を4編投稿し、小委員会内において成果内容の共有を行い、ディスカッションを通じて理解を深めた</li> <li>荷重運営委員会と連携し、荷重指針1、2章の改定案について小委員会内において内容の共有を行い、ディスカッションを通じて理解を深めた</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>構造体温度の実測例を踏まえ、構造体温度の簡易予測法の提案を図る</li> <li>構造体温度の実測例を踏まえ、構造体温度算定ソフト (Excel) の機能向上を図る</li> <li>温度荷重の繰返しによる鋼構造物の疲労、温度荷重の確率分布、温暖化のトレンドについて、引き続き検討を行い、荷重指針の温度荷重の章の改定原稿に反映する</li> <li>荷重運営委員会と連携し、荷重指針1、2章の改定案の内容を踏まえ、温度荷重の章の改定原稿を執筆する</li> <li>実務の設計へのより一層の活用に向けて、設計事例のブラッシュアップについて引き続き検討を行い、荷重指針の温度荷重の章の改定原稿を執筆と共に、活かす資料の改定原稿の執筆を進める</li> </ol>